

田島中学校区 学校再編整備計画（案）説明会 質疑応答議事録

1 平成 30 年 9 月 28 日（金）午後 7 時～午後 8 時 30 分

2 場 所 田島中学校 LL 教室

3 参加者 16 名（大人 14 名、子ども 2 名）

4 出席者（事務局）

【教育委員会】川阪学事担当部長、大川学校適正配置担当課長、樋口首席指導主事

【生 野 区】山口生野区長、深見生野区副区長、井平地域活性化担当課長

山崎地域活性化担当課長代理

5 質疑応答議事要旨

（質問者 A）

9 年間の見通しの 4－3－2 の意味が今一よくわからなくて、この形だと 6 年生の卒業式はなくなるってことなんですか。

（樋口首席指導主事）

ご質問ありがとうございます。

小中一貫校のいいところばかり言いましたが、デメリットをあげると、実は、中学生と小学生が同居することによって、小学校 6 年生のリーダー性がなかなか育みにくいというものがあります。

そこでやっている工夫の一つとして、4 年 3 年 2 年の区切りを設けてそれぞれの 4 年間、3 年間、2 年間というくくりの中で一つ、リーダー性を育てたり、その段階、段階ごとに学力向上を図ったりというようなことをやっていくこともあるということです。

6 年生での卒業式がないのかということについては、それに代わる、例えば、立志式、志を立てる式といった形で行っておりますので、言いましても、小学校 6 年の段階で小学校課程を修了したというふうなことは明確に証明をすることをしますので、それに代わるものや、それに似たものを行います。

（質問者 A）

今おっしゃってた通りで、小学校の縦割り班でも 6 年生がすごくリーダーシップがあって、憧れたり、自分もそういう 6 年生になりたいって思ったりする気持ちってすごい今あると思うんですけど。

そこがなくなるっていうのは、何か子どもにとっていいことじゃないと思うんですね。

子どものためを思ってっておっしゃってるんですけども、結局、大人の勝手な、教師がしんどいとか、相談できないとか、そういうことではなく本当に子どものためなのかどうかっていうことをちゃんと考えて欲しくて、私今日来るときも子どもに「ママ絶対反対してきてね」って言われたんです。

やっぱり子どもの気持ちをね、もう少し考えて欲しいっていうのと、確かにね、6 人だった

ら私も賛成はしてると思うんです。

ただ、30 人前後のクラスで、それって本当に急ぐ必要があるのかなって思うんですけど、なぜ急ぐんですか。

（樋口首席指導主事）

後でそのお子さんが何で「反対してきて」と言ったのかもちょっとお聞かせいただければありがたいんですけども。

急ぐといえますか、これも先ほど申しましたように、平成 26 年度あたりから何とかしなければならぬということで、何を何とかしないといけないかといえますと、クラス替えができないという、その環境が果たして子どもたちにとっていいのかということなんです。

これは全国的にも議論されてることはあるんですけども、大阪市としても、クラス替えができない、全学年そういう状態にある、いわゆる単学級はやはり子どもたちにとって多様な出会い、また、今いま人間関係が難しくなったりした場合はもう転校せざるを得ないような選択肢しかないのです、それは子どもたちにとって教育環境としてそれでいいんだろうということですね。

それが第一の理由になります。

（質問者 A）

ありがとうございます。

ただね、私クラスでは先生が、先生の何て言ったらいいんですかね。先生の質ってというかそれ一つで子どもたちって変わっていくと思うんです。

だから今のうちの子どもたちも 1 年生、今 4 年生なんですけど、すごくいい先生に当たってすごくいいクラスになって、その状況で、必ずしも単学級が悪いとは言えないと思うんですね。その辺も少し考えてもらいたいなと思います。以上です。

（質問者 B）

どうもすみません。ありがとうございました。

実は私は田島中学校校下の将来を考える会という委員にですね、選出をされてしまいました。

それで生野区長を初め、皆さんといろんな意見交換をさせてもらった。

また気になる点とか、いろいろご指摘させていただいて、合計 8 回やったんですかね。

ですからもう、かれこれ他の時間も含めて 20 時間超えるぐらいちょっと話し合いをさせてもらったんですけども、私は最初そもそも、反対でも賛成でもなかったんですけども。

考える会を通じましてね、ちょっとこれは急ぐ必要はないなというふうな結論を、私自身の結論としては思っております。

もしかしたらね、賛成の方もいらっしゃると思いますし、またこういったプレゼンテーション、素晴らしいプレゼンテーションあるんですけどもね、これは正直に言うと、結論ありきで、また行政上のスケジュールありきで、プレゼンテーションされてるんだなというふうには思っておりますので、ちょっと違った視点をね、今回ちょっとお話ししてもらいたいな

と思っています。

ちょっと4つぐらいあるんですけども、一つ目は、正直に言うと、児童はそんなに減らないと思っています。

生野南小学校では増えます。150人台から190人ぐらいになります。

それから、田島小学校の児童はですね、いつも推計よりも高ぶれます。

ある年代では20、30人増えた。当時の推計から増えてるということがあります。

ですので、単学級の解消という時間かかるのは仕方がないんですけども、そこまで焦って結論を出さなくていいのではないのでしょうか。

もちろん、まちの課題として区長もおっしゃいました。

古家の解消とかですね、交通の便、最近ではBRTというのを今里筋に通す計画が進んでいます。

そういったところで、児童が増える。そういった要素がありうる、あるということだけで皆さんお知り置きいただきたいなと思っています。

また校区とかですね、そういった柔軟な活用によって、児童も増える、増やす、そういったことも可能だというふうに思っております。

どうしてもね、連合町会と校区をできるだけニアリーイコールにされたいと、またそれを継続されたいというふうなご意向は見てとれるんですけども、そこら辺を柔軟に対応していただけたら児童も増えるのではないかとそういうふうに思います。

それから、一つ大変懸念している材料なんですけれども、中学校に新校舎を建てる、2年間で建てるということなんですけれども、外構も含めたら3年ぐらいかかります。

ある時期の中学校生徒にとったら工事現場で授業を受け続けられないといけません。

場合によっては運動場にありつけないでそのまま卒業する可能性が非常に高いです。

言ってみれば青春の3年間ですから、そこら辺は行政上のスケジュールなんでしょうけれども、非常に懸念しております。

また最近は選択制ができたり部活で学校を選べたりしますんで、定員はあるにしろですね、そんなクラブの出来ない学校に3年間通わせるか。

そういうふうなことを選択で、別で選べる状況でですね、これをそのまま安易に進めてしまうと、場合によっては生徒数を減らしてしまう、そういう懸念があります。

だから小学校よりも中学校の方が懸念材料多いと思います。

それから、長期的にみた場合、グラウンドはもう当然のごとく、狭くなります。

今、野球部とかラグビー部とかサッカー部とかやってますけれども、それは言ってみれば今まで恩恵があったということなんですけれども、それってイコール田島中学校の特徴でありましたから、そこら辺の特徴をなくしてまでね、焦って結論を出す必要はないのではないのでしょうか。

今非常に空き部屋も多いんでね、そういった活用も考えていただきたいと思うんですけども、いかんせん中学校の、そうですね南東の方の図書館棟とかですね、そこら辺に非常に

整備がされてない、まだ活用がされてない、また雰囲気も悪いと。

そういったところに小学生児童がですね、迷い込んで変なことにならないかと、そういったことは考えたくないんですけれども、そういった視点でも持ってグランドのレイアウトとかですね、校舎のレイアウトをぜひ考えていただきたいと思います。

それから、最後に9年間のそういった教育の方針をお聞かせいただきまして、大変すばらしいことなんですけれども、感銘は受けておりますが、例えばインターネットとか、プレゼン能力を高めるとか、これはこの9年間でないと、小中一貫でないとできないというわけではありません。そういうふうな文科省の方針があると思います。

それから、先ほどね体育大会とか、文化祭とか、同時にあると非常に盛り上がるというのは人数ボリューム的には確かにそうだと思います。

ですが、練習の時にですね、体育館が言ってみれば、今までで言うと3つの学校を一つの体育館で使って練習するわけですから、雨の日が続いたり、台風が続いたり、そういうふうにしていくと、そういった練習ができないと。

そういったところでイベントで言ったら一番わかりやすいんですけれども、普段の授業から、そういった混み合っていると、柔軟的に使えないというところで苦勞されているという小中一貫校のデメリットも聞いております。

ですので、最後におっしゃいましたけれどもね、デメリットもかなりたくさんあると思います。

この有限の敷地内に、3つの学校入れ込むわけですから、そういったデメリットもありうるということですね、視点として持っていて、今日若いね、お父さんお母さんがいらっしやいますけれどもね、小さなお子さんがすごくお利口に聞いててすごいなと思って聞いてたんですけれどもね。

今日、本当はね、もっとたくさんの方に聞いてもらいたかったんですけれども、そういった視点もですね、きっちりお伝えいただきたいと思います。

決して焦る必要はないと、私個人の意見としては5年かけてもいいと思ってますので、その点、私の一つの意見として、お伝えしておきたいと思います。

(井平地域活性化担当課長)

ありがとうございます。

将来の学校を考える会からご意見をいろいろいただきましてありがとうございます。

今いただいたご意見なんですけども、当然賛成反対も含めていろんなご意見あるっていうのを重々認識をしております。

今結論があって、スケジュールにそってやってるんじゃないかという声もいただきましたけれども、行政としましては、区長からもお話ししましたけれども、今単学級っていう状況を改善していく教育環境の改善ということで、出来る限り早期に進めていく必要があると考えております。

ただし、行政として強引に進めるのではなく、地域の皆様、保護者の皆様しっかりと理解し

ていただいた上で進める必要があるということで、この間もいろんな意見をいただいております。

その中で、最短で進めるスケジュールが遅れていかないような形でのスケジュールの進め方とさせていただいてるということですので、強引に進めているってことはございませんのでご理解いただきたいと思います。

あと人数に関しまして、今、生野南小学校、田島小学校は増えていくんではないかっていうようなご意見がありました。

あくまで現在の推測ですので、実際には多少増えるっていう推測もしておりますし、今後どういった形で動いていくかということもあると思いますが、実際に各学校が2クラス、継続的になるような状況というのは難しいと考えておりますので、今後ですねB R Tの検証もあります。

そこも含めてですね、区役所としてもまちづくりっていうのは重点的に取り組みながら、子育て世帯、世代の方に住んでいただけるようなまちづくりも含めて進めていくんですけども、ただ人数が急増ということは考えにくい中で、教育環境の改善というのも並行して進めていくべきということで考えております。

あと中学校のですね、工事の関係ですけども、実際今回小学校の校舎建設ということで2年間工事がかかります。

その間は工事中という形になりますので、グラウンドも少し狭くなりますけれども、そこに付きましては、小学校のグラウンドの活用ですとか、そういった近隣の施設があればそういったところも含めまして、しっかりと検討していきたいと考えております。

長期的にグラウンド狭くなるっていうところにつきましても、小学校を第2グラウンドということで考えておりますので、そういったところも含めてしっかりと検討していきます。あと、校舎のレイアウトにつきましても、新しい学校の中でですね、教育活動する中で、どういった形で活用していくのがいいのかっていうのはしっかりと考えていきたいと思えます。

あと9年間の教育っていう中で、小学校中学校が同居することでいろんな施設が調整しにくいところもあります。

確かにそういったところも出てきますので、その辺りどういった形でうまく調整できるのかっていうのは、今後、学校ともしっかりと連携していかなあかんと思っています。ただ、今後ですね、学校設置協議会というところで、いろんなことを決めていく形になりますので、その中で今いただいたような意見も、しっかりと受けとめてですね、あと委員さんからの意見も伺いながら、新しい学校がしっかりと教育活動できるような形のものになるように取り組んでいきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

(樋口首席指導主事)

先ほど貴重なご意見、ご質問もあわせていただきましたので、特に小中一貫校のデメリット

部分を、あえて挙げますと、例えば今9年間を見通したカリキュラム、繋がりのカリキュラムと言ってますけども、これをつくるのは、誰かが作ってどうぞやってくださいというものではありませんで、サンプルは教育委員会が作ったとしても、最終的により具体化を図っていくのは学校の先生になっていきます。

小学校の先生だけじゃなく、また小学校の先生もこれまでのそれぞれの学校や、また転勤してくる先生も加えて、さらに中学校の先生もあわせてカリキュラムを最終的に仕上げていくという労力、これは相当かかると思います。

また先ほど図書館のある方向の話もありましたが、悪いイメージをあえて持つ必要はないと思うんです。

ただ、中学生とですね小学生が同居することによって、今までにない中学生の影響はもろに受けていきます。

中学生が例えばやってはいけないことをやっておれば、それを小学生が見て真似をするっていうことはあると思います。

しかしながら、私、先日田島中学校の今の部活動の様子をちょっと見させていただく機会があったんですけども、見知らぬ我々が、運動場でおりましたも、ぱっと、「こんにちは！」と自然に挨拶できるとか、また伝統あるそれぞれの部活動の雰囲気とかが伝わってきました、むしろそういう中学生と小学生が出会うということも小学生にとったらすごくプラスの経験だなというふうに思いました。

これもやってみないとわからないとか、そういう先の話ですので、こちらが勝手なイメージを抱くものになってしまいがちなので、あまりこうだと決めつけた言い方はしない方がいいと思うんですけれども。

中学生の影響を受けるとか、また、転校してきた子がもとの学校は小中一貫校でない場合、こちらが小中一貫校なので、9年間見通したカリキュラムの中でどう加わっていくことができるのかってということも考えていかなければならないこととして挙げられております。

これらいくつかあると思うんですが、代表的なデメリットとなりますが、先ほども三つの学校が合わさって、運動会の練習もという話ありましたが、学級数的には小学校が12クラス、中学校が6クラスとなりますので、合わせて18クラス、3学級平均の小学校というのも結構ありますので、校舎レベルからしては十分やっていける、あとはその運営の工夫だなというふうに思います。

ただ先ほど工事の期間ですね、これは大変ご迷惑をおかけするので、その期間ずっと我慢しなければならないということを考慮し、できる限り嫌な思いをしたということにならないように、工事関係者にも最大の配慮を促していきますし、また近隣の小学校、また近隣の中学校にもご協力を仰ぎながら、子どもたちが活発に活動している今の現状を出来るだけ確保できるように工夫していきたいと考えております。

以上でございます。

(質問者C)

こんばんは。生野南小学校の4年生と今度1年生になる男の子と娘がいます。

一応理想的なものはいくつか挙げていただけてるんですけど、やっぱり理想であって現実的にどこの学校で何が行われてて、どういう結果が出てるのかっていうことはまず第一に知りたいかなと思います。

大阪市内でもこれだけ統合されて、小中一貫の話が現実的になっているのであれば、やはりそういうことのデメリットとメリットを最初に知らせていただきたいかなと思います。

あと、そうですね、このタブレットとか、いろんな理想を並べる前にやっぱり家をやっぱり選ぶときに小学校の距離を一番に考えました。

子どもの足と親が見てあげられる距離っていうのを一番理想としてやっぱりと家と学校との距離を選んだので、それをやっぱり現在の都合に合わせて変えられるっていうのがどうしても譲れないところではあります。

やっぱり何ていうんですかね、中高一貫のイメージしか私には伝わらないので、現実的なことをちゃんとあげてほしいことと、通学路ですね。路地が多すぎます。

子どもが歩いて、どこに入り込むかわからない。

また、大人にも土地勘がないところがやっぱりあります。

そこで何かが起こったときに、どう対応してくださるのか、今でもやっぱりお家が近いのに帰ってくるのが5分のところが15分や20分、下手したら30分帰ってこないこともあります。

そういうときに誰がどう対応してくれるのか、そこに学校から一歩出たときに、それが親の責任となるのであれば、最初からやっぱ歩けない距離は歩かせるべきではないかなと実際思っております。

まず、地域の道路の整備、あそこに陸橋あって、やっぱり渡ってくることにはなるんですけど陸橋は雨になったら滑りますし、水溜りもすごくたまります。

その辺をやっぱりその統合云々の前に、まず今子どもたちが歩いている足元をしっかりと整備していただいて、そうすることによってやっぱり地域みんながそれに向けての足並みを揃えていくと思うんです。

だから学校の理想図とか、一応建設予定とかそういうことではなく、そこに行き立つまでのことを、もう少しちゃんと具体的にこの話し合いに参加さしてもらったのも3回目なんですけど、やっぱり理想で終わってしまうっていうところがもう、ちょっと先が見えないかなと思います。

私自身小学校は、10クラスありました。

37人から40人ぐらいの10クラスで、中学校はもうパンクしてしまっていて分校を隣に作るようになりましたけど、多いからいいっていうことでもなかったことも経験してます。やっぱりクラスが40人近くいると話をしない子も出てきます。

そう思ったら、いろんなところでデメリットはあると思うんですけど、少ないからではなく、少ないなりにいいところは本当によくある学校だなと、私は生野南小学校が好きなので、自

分がたくさんの人数で育ちましたが、小学校入るときにびっくりしましたが、でもそれなりにすごくやっぱり子どもたちの個性がすごく活かされてるなって。学校から教えらる子どもの個性っていうのに親が元気を貰うなと思っているので、やっぱり急ぐのではなく、実際、浪速区だったり、西成区の方で一貫にされて、本当にここが良かった、実際こんな問題が起こったっていうことを、もう少し具体的に教えていただける話し合いを持ってきていただけたらと思います。よろしくおねがいします

(樋口首席指導主事)

ありがとうございます。

現実を教えてほしいということなんですけども、実は今日ご紹介させていただいたスライドの写真なんですけど、これ実際の大阪市内の小中一貫校で、この学校は小中一貫化する前に、あの中学校と小学校を合わせるのだけはやめといてくれというような、中学校がちょっと荒れ気味の中学校だったんですけども、そこの中学校の、最新の写真をお借りしてきたんですね。

そこの校長先生にも様々伺いました。

その中で、中学生に優しさが小学生に憧れがある学校にしていきたいと思いますという言葉は私自身が自信を持って伝えられるなあとというふうに思った次第です。

ですので、ただデメリットの部分というのは、無いことは無いというか、どの学校にもあるようにあるわけです。

それは、例えば先ほどの大人レベルの調整っていうのはやっぱりいろんな場面で時間がいきますので、その辺はしんどいという話は出ています。

ただ、皆さんにもお時間ない中ではありますけれども、そういった生の小中一貫校の現状というものを、改めて見ていただく機会も作らないといけないと感じていまして、何とか調整をしながら、具体的な見学も、今後、皆さんにお知らせをさせていただきたいと思ってるということです。

先ほど、小規模がいけないのかという話ありましたが、私も小規模校、いわゆる単学級の学校で過ごしていましたので小規模校の良さっていうのは、わかっている 1 人だと思ってるんですけれども、適正規模というのがありまして、これは 2 学級から 4 学級、一学年の学級数が 2 学級から 4 学級と言われてます。

ですので、多い学級数が、それはそれで問題であるというのはごもっともな話です。

ただ単学級のままでいくということが一つ、大きな課題であるということです。

学級数の中の人数は、減らしていく方がいいんじゃないかって話はあるんですけれど、これはルール上決まっております、3 年生以上が 40 人を超えると、2 学級目を作るという。

1、2 年生は 35 人を超えると 2 学級目を作るということです。

特別支援学級在籍児童はその中には含まないということなので、特別支援学級在籍児童がいると、学級数の人数が、例えば 40 何人になっても 2 学級目ができないということもありうるということです。

ただそのルールの中で全力尽くしてやっていこうというのが、どの学校もやってるところなので、生野南小学校においても、田島小学校においても、田島中学校もそうなんですけども、子どもたちや親御さんからの今いまの状況というか、大変いいお声を聞かせていただいていますのでそれは本当にありがたいなと思っている次第です。以上です。

（大川学校適正配置担当課長）

通学の安全対策ですけども、今回説明はちょっと細かくさせていただいてないんですけども、こちらの学校整備計画案の一番最後から、最後のページを開いていただいたところに、今回、提案してます田島中学校の中に小学校の校舎を建てて、小中一貫校にした場合の新しい通学路の案をこちらにつけさせていただいています。

その中に、今現在対応として考えていること、というか具体的な案ですけども、例えば車止めポストの設置ですとかグリーンライン舗装というのは、今現在考えていることはここに書かせていただいています。

ただ、実際これだけで本当にいいのか。というご意見も当然、頂戴していくことになると思います。

こちらの具体的な対策につきましては、今後学校設置協議会ができましたら、実際にもっと細かくこんなことできないのかというご意見頂戴しながら、私ども、道路管理者であります大阪市の建設局ですとか、もしくは交通管理者の警察、そちらの方と協議をして、できる対策をとっていただくように調整していく、依頼していくという形で考えております。

あと、こちらは通学路ですけども、通学路じゃない部分につきましても、今現在各学校でやっていただいていますけども、例えば安全マップの作成ですとか、ここは近寄ってはいけないよとか、もしくは交通安全指導というのは引き続き取り組んでいただきながら、こういった通学路でのハード面と、そういった指導ですね、指導含めた対策と言うのはきっちりとしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

（質問者D）

もう何回か来さしてもらってるんですけども、

一番ちょっと根本的な話に戻ってしまうんですけども、1中学校1小学校にならないといけない理由って何かあるんですかね。

というのはね、今僕が住んでいる地域というのが林寺の一番南の地域なんですけれども、実際どうなるかわかりませんが生野南小学校がなくなり、林寺小学校、生野小学校がなくなるとね、その地域から一番近いこの田島中学校にできる新しい小学校まで何もないんですよね、小学校。

さっきおっしゃってたように、家買うときとか、つまり探すときに小学校からの距離っていうのはやっぱり重要になってきますんで、僕らの地域で話してるときにですね、だれも引越してけえへんようになるんちゃうかなという話がまず一つあります。

なぜこういう話をしてもらうかといいますと、今の、どうせもう小学校の区割りとかっていうのを、今回改めるのであれば、今の小学校の校区っていうのを一旦撤廃すればいいのにね

って話がよく僕らの中で出ます。

それですね、別に今の区割りにこだわるからいろんな難しいところが出てくるんであって、それを撤廃すれば、例えば、今生野中学には4校からの学校の小学校から行きますけども、4校、田島の場合は2つですよね。これを極端な話、3つ3つにするとか。

どこそこの小学校の校区考え直して、もうちょっと綺麗に割られへんかなとか、僕職場が生野中学の方なんで、向こうの人とよく話をするんですけども、極端な話、今里筋の東の人がわざわざ西生野の小学校に行く場合があったりするでしょう。

そういうところを何で改めへんのかなっていうのはよく出るんですけども。何で中学校に一つの小学校でないといけないかということと、今の区割りっていうのを修正することはできないかということ。その辺りの説明を聞きたいんですけども。

(井平地域活性化担当課長)

どうもありがとうございます。

一つの中学校、一つの小学校何故しないといけないのかっていうことなんですけども、ここに関しましては、必ずそうしなければいけないということではないんですけども、生野区の再編ですね、スタートしましたときからいろんな案を検討しております。

ワークショップなんかもしながら、いろんな意見を聞いてきたところでございます。

かなり小学校で言うと、西部地域12小のうち、11小が小規模になってるっていうこともございまして、しっかりと再編というのは考えていかないという中では、生野としての特色も出しながら、新しい学校というのは良いものにしていこうという中で、やっぱり小中一貫教育に力入れてということで意見もいただいた中で、そういう生野区としては新しい学校小中一貫というところを力入れていこうということでしております。

その中では、人数的なところですね、なかなか2小を統合してもまだ単学級であったりとかいう状況もあるんですけども、そういったところも含めて、1小1中の形でしっかりと小中一貫も含めてやっていけば、学級数的にもですね、将来持続的に2クラス以上ということで検討させていただいて提案しているところでございます。

あと校区の話なんですけども、実際にそういった声はよく聞いておりますが、やはり小学校ですけども、地域の方の協力も含めて無いと、なかなか学校運営っていうところも難しいところがございます。

この間ですね地域の方と一緒にやってきたところもあって、その校区割っていうのもそこに合わせたような形になっておるところもあるので、なかなかその校区を途中で割るっていうところとをやるとすると、時間的にもですね、かなりかかると。

教育環境改善しようと思えば、できるだけ早期にということがございますので、そこが一旦ちょっと切り離してですね、今の教育環境の改善ということで考えております。

ただ地域の方と話があってですね、地域の方で逆にこっちの学校が遠いからっていうようなことがあればですね、それは一緒に話がしていけるのかなっていうふうには考えております。

あと3小3小とかですね、そういったこともあるんですけども、それにつきましてもその距離ですとかですね、住まれている人数も含めてですね、検討させていただいて、今の案ですね、なかなか上手いこと3小3小というのは、距離を含めて難しいところがございますし、今の状況では生野中学校区の4小を一つの小学校ですね、田島中学校区の二つの小学校を一つの小学校という形が一番今後の教育していく中でも良いっていうことの判断を持って今の案とさせていただいているところでございます。

(質問者D)

僕の個人的な意見なんですけども、生野南小学校はなくなるっていうことは寂しいですけども、なんていうかな、複数クラスですか、クラス替えがあるような学校の環境っていうのは望ましいと僕も思ってて、基本的には賛成なんです。

生野南小学校が例えば廃校になってですね、林寺地域の子は林寺小学校がもしあれば林寺小学校に通う。田島の地域の子は田島小学校に通う、小学校が複数あって最終的には田島中学校に来るというパターンというのは、僕何回かこういうことを言わせていただいているんですけども、なかなか難しいんですよ。地域から提案しろって、よくおっしゃるんですけどもね。

こういうふうに田島中学校地域の方がまず集まって話をしてる、生野中学校の方は生野中学校の話している。

なかなかそういう、きつとね、林寺小学校なんて話聞いていると、反対意見が多いという話聞いてまして、なかなか話が進んでいかないのであればね、そういうふうな新しい小学校をまとめて、一遍にそれだけ減らすんじゃないしにね、減らしていく方向ではあるけれども、段階的に減らしていけばどうかな、というのが結果的に早くて、さっきおっしゃってたように、中学校の新しく新設するようなこともないですしね、小学校の施設として使えますし、学校減らすことで変な言い方ですけどコストも下げられると思いますしね。

僕はそれが一番現実的で、林寺に住んでる者としても、林寺小学校か生野小学校が残る方が地域性としては生活圏として、ですけども、近いと感じてますしね。

それが一番結果的に僕は早いんじゃないかなっていうのと現実的ではないかなと僕は思っています。

それをまとめる提案を地域の方からしろっていうのはちょっと難しいかなとは思ってますけれども、いろんな今行き詰まっている状況を変えるには僕はそれが早いんじゃないかなというのが一つの意見です。

以上です。

(井平地域活性化担当課長)

ありがとうございます。

意見でいただいている通り、なかなかやっぱり地域の難しいところはあると思います。

ただ、林寺小学校と生野南小学校をくっつけたり、どちらか残す案ということで考えましても、やはりその単学級の解消はなかなか難しいところもありますので、現在の提案とさせて

いただいておりますが、そういったところですね、校区割りのところも含めて、なかなか我々からってというのは難しいところが逆にあるんですけども、そこは地域の方とも話をしていければなと思っております。

（質問者D）

具体的にね、そういう提案ってというか話があったときに、誰かと話してるっていうことはあるんですかね。

林寺小学校の方はかなり反対していて、何ていうか、そういう話し合いの場に来られていないようなことを聞いているんですけども、前も言われたんですけども、そういう意見があれば地域でまとめて持ってきたさいってようなことをおっしゃったんですけども、僕らがそういう意見をまとめるというのは非常に難しいですよ。個人的には思っているんですけども。

だから、何ていうかな、区とか教育委員会の方からですねそういうことを提案という形はないでしょうかね。

（井平地域活性化担当課長）

林寺さんの方はそちらの地域になりますけども、地域の中でしっかりと話し合いをされて意見交換なりをされてるので、その中でしっかりとやられてると思うんですけども、今回こちらの生野南さん林寺さんの方の中で、そういう校区割りの話っていうのはちょっと初めて聞いたところもありますので、お話する中ではそういった声もありますよっていう話はしていけるかなと思います。

ただ、それを持ってすぐにどういう形で動くかっていうのは難しいところもあると思いますけども。

そこは御意見いただいておりますので、受けとめた形で進めていければなと思います。

（山崎地域活性化担当課長代理）

補足させていただきます。

昨年の説明会の際にも生野中学校区と田島中学校区で三つの小学校が残るような形でどうかという、そのご質問いただいた方かと思います。

我々としても、複数学級ができるように、安定的にできるようにいう形で、この間いろいろシミュレーションをしながら、案ということで作らせていただきました。生野中学校区、田島中学校区で3つということもいろいろ考えたりはしたところはあるんですけども、今の小学校区を極端な話割るとかっていう形だったら、またいろんなパターンで出てくるのかなというふうには思いつつも、それを割られる地域の方からすると、やはりすごい抵抗感が強いんだろうなというふうに思ってます、例えば舍利寺地域でありましたら、今お話もいただきましたけれども、今里筋よりも東側の方も生野中学校区になっております。舍利寺に関しては、地域の方ともお話をさせていただいて、どんなパターンがあるのかも、示して欲しいと言う形もいただいたりもしまして、例えば、今里筋より東側に関しては、生野中学校の方ではなくて、田島に行くでありましたり、例えば大池の方に行くでありましたり、

そういうパターンもいろいろ考えられますよ、また一緒に考えていきましょうねと。

どういう形がいいのか、ちょっとまた議論させてくださいねっていう、その当該地域にはいろいろお話なんかもさせていただけるのかなというふうには思ってますし、そういう形で進めていきたい。

先ほども変更する可能性あるんかと、いう話で言ったら、全くないという話では我々も思っておりませんので、そういうふうにして進めていきたいと思います。

ただ、よくあるのは、あそこの地域を割ったらいいじゃないかっていう、よその地域のことをご意見としていただくこともあるんですけども、その部分に関しては、なかなか我々も言いにくいかなということもありましたんで、ちょっと今の現状は、そういうような状況になっているということでご理解ください。

(質問者B)

ちょっとすいません。座ったままで申し訳ないんですけども、それがね、客観的にね、そのやりとり、今ね、お聞かせいただいてね、正直に言うと、何か地域のお偉いさんとかを意識されてて、本当に子どものことを考えて結論を出されているのかというのはすごく疑問に思いますけれどもね。

どちらかという地域を割る。これはもちろんね、地域の協力あって小学校なんですけれども、順番としては、やっぱり小学生児童のことが一番に考えないといけないのに、何か統廃合しやすい案をどうもお示しになられてるなっていうふうに、今客観的に感じ取れるんですけどね。

それぞれのね、住んでる地域によってニーズが違うはずですよ。

その違うニーズの、そういった意見が上がってたはずですよ、今まで。

上がってたはずなのに、結局は何ていうんでしょう、何か偉いさんが、また何かやりやすさ、統廃合のやりやすさを優先されているように感じ取れるんですけども。

これはすいません私の感想です。

はい。以上です。

(山口生野区長)

すいません。

このご意見、例えばPTAの方からもよくいただきます。普段、やっぱり町会とかなかなか関わってなかったりとか、連合っていう集まりというのが一体何なんっていう思い、校区がそれに縛られるのもおかしいやんっていう思いというのはすごく良く分かります。

私も生野に限らず、全ての大阪市の校区を見てて、なんでこんな不思議な場所に学校があるとか、何でこんな歪な形になってたりするんやと、それぞれ地域に聞きますと、事情もあったりとか、今、何かに付けて、防災の訓練にしましても、高齢者の見守りにしましても、地域の子どもの通学の見守りにしても、基本的には、この連合と町会の集まりでっていう連合単位、または、まちづくり協議会でという新たな枠組みもありますけど、それでできてるんですね。それを一切考えずに、新たな校区割っていうのを検討しようという、もちろん考え

たこともあるんですけども、おそらく10年15年かかってしまうんだろうなっていう。何人かの方は、そんな子ども優先やって言ってくれる方もいらっしゃいます。ただ、今までずっと歴史がある中で、そんな簡単にはできないっていうのは何かこう聞いてると難しいなっていうのが正直な思いとしてあるんです。

子どものことを第一に考えるときに、今のままでと言っても校区を変えれば当然その校区の位置に住んでる子どもの学校が変わっちゃうわけですので、そういったことも考えながら、子どものために、地域の方、連合の形は無視して、校区を作ればいいじゃないかという考えも一つです。しかし、それに例えばもう本当に10年、15年かかってしまうっていうのと、今、単学級で確かに、30人ぐらいいてますっていうようなところであったりとか、特にこの二つの小学校に関しては、緊急性という意味では、さっきお話しした6人とは、また違うじゃないかというふうなお気持ちもわかるのですが……。やっぱり、こっちはどうしても生野区全体っていうのを考えたときに、自分の学校が、こうだから、うまくいってるから自分の学校が今大丈夫だからっていうだけでなく、全体的なことも考えてこの構想というのは、私が来る前に作られたものを引き継いだわけです。私も学校の校長でしたから、シンプルに、なんという計画って最初はやっぱり、12小学校を4小学校にどうなんだろうって思って、全部計算をし直しました。そうするとやっぱりこの案に落ち着くんですよ。最後、全部再編が終わった後に選択制をかけることによって、ちょっと通いやすい学校選んでもらう、かつ、それでも遠い場所になる子どもたちが、例えば北鶴橋の端っこでありますとか、林寺の端っことかあるんですけどもこういった子どもたちがだいたい何人ぐらいの再編、順調にと言うのも変ですけど、再編が終わった時点で何人ぐらい1年生2年生3年生ぐらいの、特に通学が心配の子どもたちがいるだろうかっていうのも、今の0歳から5歳児の数から拾って行って、だいたい10人ぐらいずついるよねって、この子どもたちをどうやって安全に学校に送って行こうでありますとか、そういったことを一生懸命考えているんです。いろんなご意見いただいているんな地域でそれぞれ本当に事情があって、個別の小学校区でお話をしていくと、やっぱり、かなり思いがバラバラ過ぎてまとめられないですね。全員の言うことを聞いたら、多分一つもできないと思います。そもそも「再編しなくていいじゃないか」っていう思いもある方もいらっしゃいますし、「うちはもう子どもの声も聞こえへんし、まちがどんどん寂れていくから早くしたってくれ」とか、「運動会、少なくなっって見られへんねん」という声もあつたりもしますし、だから本当にいろんな声がある中で、100%全員に正解はないのを、じゃあ、皆さんで話し合っ決めてくださいっていうのを、延々と何年間か繰り返していても、とりあえず行政案出してよっていうふうに言われたのが多分数年前で、それに対して案を出す、案を出す以上はやっぱりスケジュールっていうものがやはり工事が何年かかかりますっていうところも含めて、示すというのは一応行政の役割ですので、そこにまちづくりのこともあわせて今示させていただいているのが行政案です。

だから今日もいろいろご意見を伺いながら、やはりやるためにね、初めてこられる方とか、

それぞれまた想いの違う方もおられるので、それを受けとめながら、本当に、みんなにいい形にしたい。じゃあ、やらないっていう選択肢が本当に子どもにとっていいのかっていうのも、私も3年間校長してたときと、あと私自分の娘が5年生ですけれども、自分が校長してた学校出て、1年間、教育委員会のあと生野区に来るときに、自分がいた学校に入れました。それはその娘に「ごめん、おかあちゃん生野区長になって、区役所近くに住まないかんねんと、自転車30分以内で行けるとこに住まなあかんねん。申し訳ないけど、保育園からずっと育ってきた友達と同じ1学年5クラスの学校から転校せなあかんねんけど、どうする。」って聞いたら、「おかあちゃんの学校やったら、仕事で何回かついてきてたので、行事とかに、おかあちゃんの学校やったら知っているからっていいよ」と言って入りました。

17人ですね1学年で、最初の頃はね、大規模校でちょっと取りこぼされている感がある子だったので、すごくいい担任の先生、全員知ってますので私も苦手だった漢字とかだいたいできるように力をつけてきたと思ってました。ただ、高学年になるとね、女子がしんどくなるんです。ならなきゃいいなと思ってこっちは見ているし、そういう目でね。周りも見てちょっといろいろ介入しつつ、集団作ってくるんですけども。やっぱり休みの日、友達と遊びに行くって、誰だれと喧嘩して、あの子とはちょっと一緒に遊ばれへんから、呼ばれてもよう行かんみたいなところでも、ああ、なんかしんどくなってきたなというのが一つ思っていることと、やっぱり学力面で今度はまた、要はあんまり比べる相手がないというか、割とクラスで、できる、できる、と思ってしまうところでも、多分そんな力ついてへんと思う場面とかも出てきて、5年も学習内容が難しくなってくるので、そういった難しさはあるなっていうのは、1人の親として感じているところです。

だから、メリット、デメリット本当にあって、長いこと単学級の学校だと、地域も保護者の方も先生も目が慣れるんですよ。

一回、12人が出て28人1年生入ってきたときに増えたなって言って大騒ぎになったんですけども、その時に、3学級ある学校から転任してきた先生が、「いやもう全然増えたんっちゃいますよ、28人しかいませんよ」って言って、学年に一学級しかないから誰がまたそれを担任してちょっと多めのクラスをどうやっていくとか、みんなでやっぱり考えなきゃいけないって、課題もあれば、良い面もあれば、いろんな当時の子どもたちの顔が浮かぶんです、保護者の方の思いとか。

だから、なんか答えになってない答えで申し訳ないんですけども、こういう機会にやっぱりこう、もっとたくさんの人に考えてもいただきたいですし、少しでもいい形になるような、課題解決ができたらいいなという、どうしても敵対関係みたいになってしまうのはとても残念で、子どもの環境を良くしたいっていうのと、まちを良くしたいというこの2点においては、目的は一緒だとは思ってるんです。ただ行政ってどうしても説明が硬い。私は民間から行政に来たこともあって説明も硬いし、なんかこうはつきり言い切らんようなところもあって、不信感もたれてしまうのも残念やなと、思うんですけども。

私達、通学路に関しても全部歩いたりでありますとか、何ができるかとか、それこそ警察と

か建設局とかいろんなとこと、やりあって、やっぱりそういう条件とか求めていかないといけない中で、いろいろこうやって考えているし、今日いただいたご意見とかそういうまた一つの大事な考えるための種になるっていうか、材料になるっていうこともお伝えしておきたいなと思って、まずはご意見いただければありがたいです。

ありがとうございます。

（質問者A）

最短でっておっしゃってたんですけども、そのことに関して私達、反対の意見とかいろいろ話さしてもらったんですけど、たぶん、本当に全ての人の意見を聞いてたらいつになるかわからないのも、そんなわかってることなんですけどね、ただ今の状況で強行突破みたいなことをする可能性は絶対はないって約束してもらえるんでしょうか。

（井平課地域活性化担当長）

先ほどもお話ししましたが、これからの学校設置協議会っていうのを作らせていただいてその中で、具体的ないつやるっていうところとかも決めていく形になります。そのメンバーにつきましては、PTAと地域ですね、地域まちづくり協議会の方に推薦を依頼していく形になりますので、その中でしっかりと説明しながら意見をいただいて、推薦いただいて、立ち上げていくっていう形になりますので、そこで理解いただければ、行政として、強引に進めるっていうことが難しいというか、出来ないと思っています。